

千八百八十六年には百〇三萬三千平方英里に蔓延し千八百九十八年にはモンタナ、ネヴァダ、ウッイオミング、アラスカ、アリゾナ、ニューメキシコの外合衆國中産せざる州なきに至り當初の希望は全く後悔の歎聲に變じイリノイス、ミシガン、オハイオ、ウタの四州にては賞金を抛て此鳥の撲滅を計り已にイリノイス、ミシガンの二州にては十一萬七千五百弗の費用を支出せり

合衆國の如き害虫の驅除には最も力め一流の學士を農務省に聘し善く調査を行ひ然る後驅除の實行を期する國にして本文の如き失策あり民間に在りて殖産の業を營むものよく動物相互の關係を討究するにあらざれば此種の災に罹る事多からん讀者宜しく注意して苟も外國より新に鳥獸を輸入せんとするものあらば其人に向て警戒の勞を吝む事勿れ

「ムクドリ」ムクドリの一種 *Sturnus vulgaris* は歐洲及び亞細亞の西部に産し本國にては主として昆虫を食餌とし幾分か果實を食し他鳥の巢を覗ひて其卵を害するの嫌なきにあらざれども先づ益鳥なりと稱揚せられ又スコ

トラシドに於てジョンギルモール氏は此鳥百七十五羽の營養管を剖見して其内容中七割五分は昆虫二割は雜草の實残り五分は雜物なる事を證明し其食餌たる昆虫の中多分は害虫なる事を示し更に卵殻の破片たも見出さざりしにより雲雀其他の鳥卵を害する事は誣言なるべしと云ひたれども濠洲に輸入したる結果によれば全く其習性を變じたるものゝ如く果樹園に大害をなし今や其撲滅を計るに汲々たりと云ふ

(中川久知)

●魚類に於る消化作用

從來高等哺乳類の消化に就てはフォイト、ペテンコーフェル、ストーマン諸大家の精確なる研究に依りて今日にては大に明細の域に達するを得たり然れども魚類に於る研究は殆んど皆無の姿にして従つて是に對する吾人の知識は全く茫漠たるものなりきカール、クナウテ氏は數年來魚類の消化作用を專攻せられ近頃大に有要なる論文を公にせられたり氏の材料は重に鯉なりしと云ふ腸管内の液體は酸性反應を顯すことなく又ペプシンの痕跡をも有せず而して腸管壁粘膜のエキストラクトはアルカリ性

溶液の中にありては強度のトリブシン反應を示すと云ふ、胆汁は直接に此反應を示さざるも大量なれば腸管及肝膵腺の消化力を大に補助す腸管、肝膵腺よりは等しく脂肪分解素を摘取するに得其働は同じく胆汁によりて高めらるゝなり又口腔内面粘膜を除き他の消化管部は悉く糖化素を分泌し殊に肝膵液に著しく胆嚢も亦糖化作用を兼行す此糖化作用は温度と共に變じラブチナムは攝氏二十三度なり又氏の研究に依れば肝膵腺のエキストラクトは善く細胞膜質を溶解し得ると云ふ

●不具鳥(鳩)ノ卵巢ノ構造

と題し米人某氏は色々面白き事項を記述せられたり此鳥は固渡瀨博士より某氏に贈られたるものにして其兩親は普通の白鳩(コランバ、アルバ)なれども幼少の頃より奇態なる點多かりしと云ふ例ば非常に神経質なること、鳥籠に入る度荒々しく飛翔すること、又絶えず體を震はし羽毛は疎鬆にして見悪く鳴聲も甚だ異様にして一眼不具なることの如し外觀奇異なりし又卵巢も大に常態より外れたり、重なる點を列記せんに卵巢の何れの部分にても雙

卵非常に多く卵胞中も二卵卵黃膜を以て相接す尤も此事は年來數度發見せられたりしも其原因は明ならず或る人は卵の直接分裂に歸し或る人は二卵子の合同なりと主張す核は一般に不正形を有し解體の態度を示す又元形質中には空胞多く各アットラクション、スフヒーアを以て圍まる後者の中には往々中心體一箇或は二箇存することあり大なる卵子を見るに卵體周邊の部分は卵胞細胞變形して此中に侵入したるファゴサイトの爲に次第に蠶食せらるゝと云ふ

●ミ、ズの硝子膜

ミ、ズの硝子膜は容易に酸及びアルカリに溶くミロンの反應にては弱きバラ色を呈しキサントプロテイン反應はあれども直に溶解す又 2% の硫酸に溶し二十四時間四十度に熱した後十五倍水を薄め二三時間百度に熱し苛性カリにて中和するもフェーリングの液に對し糖の存在を示さず(藤田氏藥劑便覽五九、六〇頁參照)(キチンには糖分子あり)又分析し見るに窒素 16.4% ありキチン中には窒素僅に 1.0% なり以上の事よりミ、ズの硝子膜はキチン